



第431号

公益社団法人
徳島県環境技術センター

発行

徳島市津田海岸町 2-33

電話 (088) 636-1234(代)

FAX (088) 636-1122

発行責任者 大坂 利弘

編集者 原岡 艶甲



環境技術センターは、国土交通省、農林水産省、環境省の3省合同で示された新マニュアル、「持続的な污水处理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」による10年程度を目途に污水处理の概成を受け、県下の市町村長へ浄化槽による污水处理の整備等についての要望活動を実施した。

<市町村長訪問の日程>

- 1月7日午後 七條明上板町長を訪問
- 1月17日午前 影治信良美波町長を訪問
- 〃 午後 濱田保徳小松島市長を訪問
- 1月21日午前 福井雅彦牟岐町長を訪問
- 〃 午後 前田恵海陽町長を訪問
- 1月22日午前 石川智能藍住町長を訪問

<要望書の主な内容>

- ①下水道との役割分担の中で「環境にも財政にも優しく地震に強い浄化槽」を市町村設置型(PFI方式)により一層の整備促進を図りたい。
- ②浄化槽の適正な維持管理を確保するための助成制度の創設や公的な組織による管理体制を図りたい。
- ③公共施設に設置された単独浄化槽を合併浄化槽へ転換を図りたい。



1月7日、大坂会長をはじめとする県環境技術センター執行部は、上板町役場に七條明町長を訪ねた。

席上、執行部からは、上板町における浄化槽の現状を報告するとともに、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を積極的に進め、污水处理人口普及率を引き上げるためには、市町村設置型をPFIで行うことが最も有効として導入を求めた。

これに対し、七條町長は、農業用水路や側溝などの浄化槽からの放流先の問題等、導入するためにはクリアする課題も多いと回答、早急な導入は困難であるが、今後も浄化槽の普及自体は積極的に取り組むとの意向を示した。



七條上板町長に要望活動



1月18日午前10時、大坂会長をはじめとする県環境技術センター執行部は、影治信良町長と面会するため、美波町役場を訪れた。

席上、執行部からは、污水处理人口普及率を引き上げるためには、市町村設置型をPFIで行うことが最も有効として導入を求めた。

これに対し、影治町長は、南海トラフ地震の浸水対策や道路関連事業など、町が抱える懸案事項は多岐に亘っている。無論污水处理も進めなければならない課題と考えているが、漁業集落等は、住宅が密集しており、敷地の関係で浄化槽での整備は困難である。

また、市町村型については、県水・環境課からも要望があり、今後海部3町で集まり協議する方向で考えているので、その際には、資料の提供等で協力願いたいとの依頼があった。



影治美波町長に要望書を手渡す大坂会長

濱田小松島市長を訪問

市町村型浄化槽等を要望

1月18日午後1時、浄化槽の設置と適正管理推進を要望するため、大坂会長、地元の庄野理事及び執行理事は、小松島市役所に濱田保徳市長を訪ねた。

まず、執行部から、今後、財政負担上の観点から下水道の整備は困難であることから、生活排水処理対策は市町村設置型浄化槽をPFI方式で行うことが最も有効として導入を求めた。

これに対し、濱田市長は、今、ようやく学校の集約・移転や火葬場の整備等の課題解決に向け動き出したところであり、そのほかにも多くの問題を抱えている。水環境保全も重要な課題として認識はしているが、市町村型も一つの選択肢として、先ずは役所内で十分に検討させて頂きたいとの意向を示した。



濱田小松島市長に要望書を手渡す大坂会長

福井牟岐町長を訪問

市町村型浄化槽等を要望

1月21日午前、大坂会長をはじめとする県環境技術センター執行部は、要望活動のため、牟岐町を訪問、福井雅彦牟岐町長と面談した。

福井町長は、町の人口の約7割が役場周辺の狭い地域に密集している。よって、敷地面積の関係から浄化槽の設置は非常に困難であるとの見解を示した。

なお、当該事案に付き、今後海部3町で集まり協議するのであれば、他町とも連携を図り検討したいと述べた。



福井牟岐町長に要望書を手渡す大坂会長

前田海陽町長を訪問

市町村型浄化槽等を要望

1月21日午後、県環境技術センターの大坂会長及び執行理事は、海陽町を訪問、前田恵海陽町長に対し、市町村設置型浄化槽の導入等について要望活動を行った。

前田町長は、今は、宍喰・海部・浅川地区の下水道を早期に繋ぎ込む予定である。他は浄化槽地域であるが、大里地区等は、放流先が無く、浄化槽が付けられない。敷地と放流先の確保の問題が解決できれば、導入の可能性は広がるのでは無いかと述べ、今後他町とともに協議したいとの意向を示した。



前田海陽町長に要望書を手渡す大坂会長

石川藍住町長を訪問

市町村型浄化槽等を要望

1月22日、大坂会長以下県環境技術センター執行部は、藍住町を訪問、市町村設置型導入による合併浄化槽の推進や適正な維持管理の確保などにつき、石川智能町長に要望書を提出した。

要望に際しては、友竹哲雄副町長、奥田浩志課長にも対応していただき、友竹副町長からは、藍住町では町内ほぼ全域を下水道で整備する計画にしており、今後も市町村型は導入しないとの方針が示された。

一方、法定検査を含め、浄化槽の維持管理については、水質保全の観点から、住民に対し積極的に啓発し、適正管理を指導したいとした。



左から大坂会長、石川藍住町長、友竹副町長、奥田課長



『環境保全への意識改革』を目的に、将来を担う子供たちへの環境教育をスタートさせ、今年ではや 4 年目になる。

環境学習出前講座を始めた頃には、訪問した学校は 3 校ほどであったが、県や市町村と連携し、今年も幕を下ろせば、25 校の小学校と、一般向けに 2 か所で講演を実施した。総受講者数も 1,422 名に上る。

さらに、いくつかの学校では、オープンスクールに環境学習出前講座を利用して頂いたり、講座の内容をケーブルテレビが取材に来たりなど、子供向けだけでなく保護者を直接ターゲットに取り込む機会も増え、活動範囲は広がりを見せている。

地道な活動であるが、普及啓発の環は大きくなっていく手ごたえがある。

今年度開催した講座は以下の通り。

①学校関係

表-1

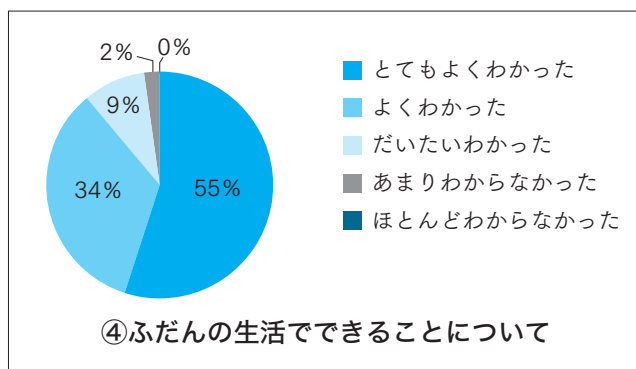
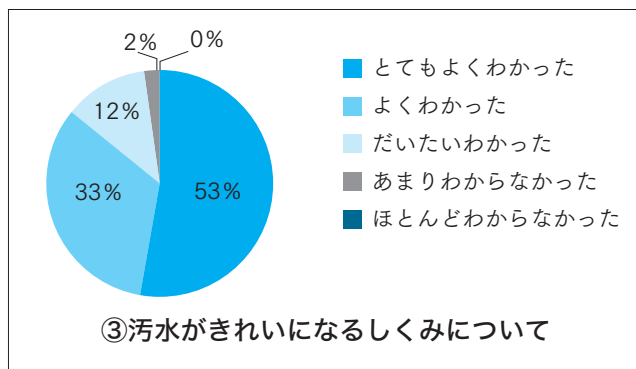
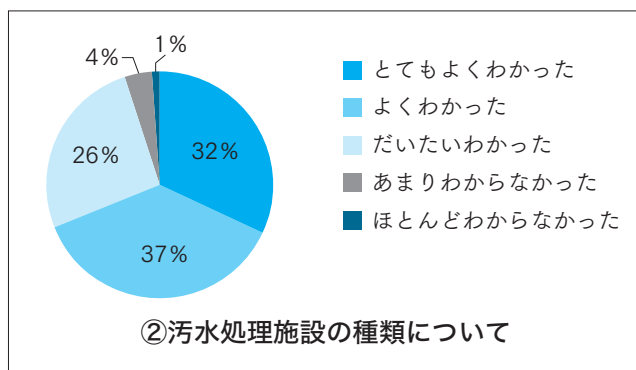
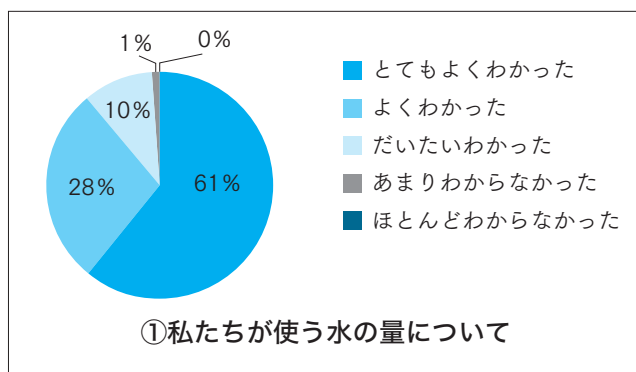
開催日	小学校名	受講者数
6 月 8 日	徳島市立八万小学校	102
9 月 25 日	徳島市立沖州小学校	67
9 月 28 日	徳島市立助任小学校	121
10 月 21 日	徳島市立城東小学校	66
7 月 8 日	鳴門市立桑島小学校	34
5 月 13 日	阿南市立羽ノ浦小学校(5 年生)	117
7 月 7 日	阿南市立横見小学校	15
9 月 16 日	阿南市立岩脇小学校	42
11 月 11 日	阿南市立平島小学校	62
10 月 29 日	阿南市立羽ノ浦小学校(4 年生)	104
10 月 14 日	石井町立石井小学校	83
1 月 12 日	小松島市立千代小学校	29
7 月 3 日	阿波市立市場小学校	31
10 月 5 日	阿波市立御所小学校	35
10 月 20 日	阿波市立一条小学校	32
11 月 13 日	阿波市立柿原小学校	19
10 月 6 日	美馬市立江原北小学校	7
10 月 1 日	美馬市立江原南小学校	36
11 月 1 日	美馬市立脇町小学校	45
11 月 5 日	美馬市立郡里小学校	14
6 月 16 日	三好市立山城小学校	11
10 月 13 日	松茂町立松茂小学校	94
10 月 2 日	藍住町立藍住東小学校	72
11 月 6 日	藍住町立藍住西小学校	95
6 月 24 日	上板町立神宅小学校	21
合 計		1,354

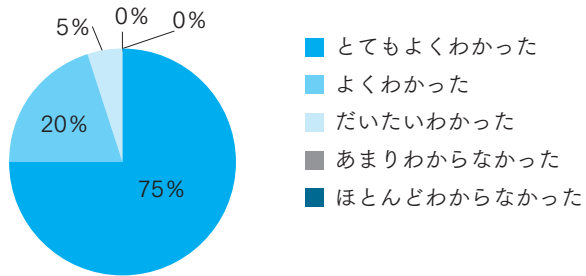
②その他団体

表-2

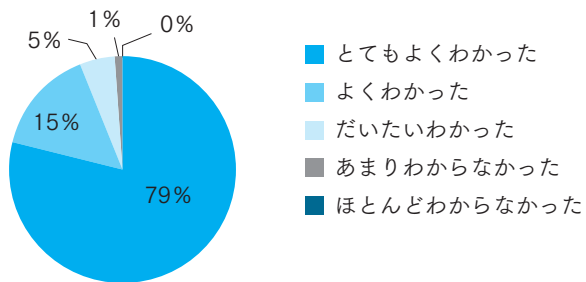
申込団体等	開催日	受講者数
徳島県立図書館	7 月 22 日	45
独立行政法人水資源機構	7 月 15 日	23
合 計		68

また効果の検証として実施しているアンケートについての結果は次の通りである。





⑤水の大切さについて



⑥実験・体験について

全体的に講義の内容は「とてもよくわかった」「よくわかった」が8割から9割をしめるなど高評価を頂いた。

特に意識改革の基盤となる『水の大切さ』については「とてもよくわかった」が約8割と狙い通りである。

反面、『污水处理施設の種類』については、「とてもよくわかった」が約3割という結果で、この分野は専

門用語を使用することもあり難しくとらえられたと考えられる。

次年度も、内容に創意工夫を重ねアレンジし、子供たちの記憶に残る講座にしたいものである。

これからも徳島の魅力ある水環境の創出の一端となるよう、普及啓発に力を注ぎたい。

水 質 計 量 便 り

冬の奇跡～雪の結晶～

今年の冬は、数十年に一度クラスの非常に強い寒気の影響で、九州では記録的な大雪が、また、沖縄本島でも雪が観測されるなど、大寒波報道が記憶に新しいところです。徳島県でも積雪が観測され、一部大雪警報が発令された地域もありました。

子供のころは、雪が降るとわくわくしたのですが、大人になると厄介な代物と考える方も多いのではないのでしょうか。

そんな中、少し童心に帰るようなニュースがありました。『雪の結晶に同じものは二つとない』という定説が覆される』との見出しで、雪が結晶化する条件を巧みに操り、同じ形状の雪の結晶を人工的に作り出すことに成功したという内容でした。

そもそも雪の結晶は、微小なちりなどが大気中で冷却され氷の核が生まれ、その核に水分子が成長することで結晶の形を形成します。この時水素結合という引き合う力が働き、これが平面方向に成長していくときに酸素の周りの3つの水素が等角となり、結合の角度が120度となって六角形の基本構造を作るようです。しかしながら、最終的な形は、温度と水蒸気の量で決まります。

例えば、水蒸気が多いと結晶の辺や角が成長し、より複雑な形になります。雪の結晶の代表格である樹枝状結晶は、-15℃付近の横方向に広がる温度範囲で成長し、水蒸気の量も多いため枝がよく成長したものです。

また、雪の結晶は最初は六角柱をしているのですが、その後の温度で角板状になるか角柱状になるかが決まります。

このように、雪の核を取りまく気温や湿度、落下速度などは変化し続けるために、雪の結晶は複雑な形をとり、同じものが二つとないと言われてきました。

そこで、今回報告された研究では環境条件を一緒にしてしまえという考えだったんでしょね。何にしても、雪の結晶はとてもきれいです。もう芸術作品ですね。(*^。^*)

by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

〇11条検査

日程：平成28年3月7日～3月31日

地区：徳島市・吉野川市・阿波市・
美馬市・三好市・藍住町・
北島町・石井町・上板町・
つるぎ町・東みよし町・佐那河内村

〇7条検査

日程：平成28年3月7日～3月31日

地区：徳島市・鳴門市・小松島市・阿南市・
吉野川市・阿波市・美馬市・三好市・
つるぎ町・東みよし町・美波町・
牟岐町・海陽町

〇那賀町検査(らくらくあんしん協議会)

日程：平成28年3月7日～3月31日

地区：那賀町全域

〇神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)

日程：平成28年3月7日～3月31日

地区：神山町全域